

緑の相談コーナーだより

NO. 307 2011. 1. 1 発行

岩見沢市志文町 794 番地

いわみざわ室内公園「色彩館」

身近な樹木 “サカキ” (榊)

～神道と切っても切れない間柄の樹～

ツバキ科サカキ属の常緑小高木で、高さ8～10 m、時に15 m、直径50 cm以上になるものもあります。本州中部以西から四国、九州、沖縄、台湾、朝鮮半島、中国などに分布し、山林内に自生しますが、栽培されているものも多く、神社の境内によく見られます。葉は厚く、葉柄があり互生して枝の上に2列につきます。長さ8 cm前後で、先の方は鋭く細くなっていますが、末端は丸く、つるつるしていて質は強いがもろい感じがします。花は5弁で、7～8月葉腋に長めの柄をもつ花を1～3個、下向きに



サ カ キ

Cleyera japonica Thunb.

咲かせます。初め白色ですが、散り際には黄色みを帯びます。サカキの枝葉は玉串として神事に用いますが、本州中部以北ではこの木が少ないので、よく似た同じ仲間のヒサカキの木が、代わりに神事に利用されます。しかし、ヒサカキはサカキに較べて葉が小さく、縁には上向きする鈍鋸歯があり、雌雄異株で花も小さいといった違いがあります。ところで、一般に「さかき」という場合、サカキに限らず、神域に植えられたり、神事に用いられる木を指すことが多いようです。

植物名の由来ですが、サカキは「^{さかえぎ}栄樹」の意味、年中葉が青々と茂ることから、神が宿る木とされたことになるといわれます。また、「榊」の字は神と木を合わせた日本の国字で、このほかに「賢木」と書くこともあります。また紀貫之の歌に、「おく霜に色もかわらぬ榊葉の香をやは人のとめて来つらへ」とあることから、「^さ小^か香^き木」で香ばしい常緑の樹木という意味から名づけられたという学者もいます。

この木は耐陰性がやや強く、庇陰下でも生育しますが、適潤な砂質壤土を好み、谷間や中腹以下の斜面によく生え、比較的成長が早い特徴があります。このようなこと

から、神事などに用いるため栽培されたり、常緑の緑化樹として公園・神社などに植栽もされます。繁殖は、実生と挿し木ができ、挿し木は比較的容易です。実生は秋に果実を採取したら果肉を除き、水洗してから陰干しにします。乾燥をきらうので、この後すぐとりまきにするか、土中埋蔵または保湿低温貯蔵して翌春播きます。

サカキの材は淡褐色で辺材と心材の区別はなく、緻密で強靱なので床柱や櫛、天秤棒、道具の柄、杵、箸、洋傘の柄などに使われます。しかし、何と言っても枝葉を玉串として神事に用いることが一番多いと思われます。

神垣の三室の山の榊葉は

神のみまえにしげりあいけり

古今集



公園だより



バラ園

巷で言われる地球温暖化のせいでしょうか？ここ2～3年、師走に入っても雪が少なく、暖かな日が多い年が続いているような気がします。通常なら、バラ園は厚い雪のフトンをかぶり、深い眠りに入っているのですが、近年は折角積もった雪が解けてしまったり、寒気がぶり返したりします。積雪が多いとされる岩見沢は、雪中温度が0℃前後と安定していることから、道内では比較的バラの冬越しが楽だとされてきました。最近の冬の天候は、バラにとっては寒風害が案じられます。

♥**今月のバラ園からの一口メモ**は、バラの利用法についてです。バラは切り花ばかりでなく、ドライフラワーをつくったり、花卉や実をジャムに加工したり、灰を焼き物の釉薬に利用したり、花卉をポプリの原料にしたりと、いろいろな利用法があります。まずドライフラワーですが、花は完全に開くと散りやすくなるので満開の少し前に切り、下の方の葉を落として5～6本ずつ切り口を束ね、通風のよい部屋の天井などにつるし、陰干しします。利用するときは、籠や壺、バスケットなどに大きく盛ったり、スターチス、カスミソウなど他のドライフラワーと組み合わせると面白い味ができるでしょう。

室内公園色彩館では、春を告げるヤブツバキの花が咲き、サザンカも満開となって、新春を迎えた館内に彩りを添えています。緑の芝生は、柔らかなお正月の陽ざしに生氣をもらって、まぶしく輝いてみえます。これから、外のバラたちが眠っている間は、色彩館内のバラを楽しんで頂く季節です。また、今月の下旬頃には、一足早くサクラの花も見られることでしょう。

南国温室では、三尺バナナの実がいよいよ収穫時期です。レモン、ブンタンの実が色づいてきました。ストレリチア・レギナエ（極楽鳥花）やサントアンカ、ランタナの花も咲いて、外の雪景色が信じられない！ここは南国、常夏の別世界です。

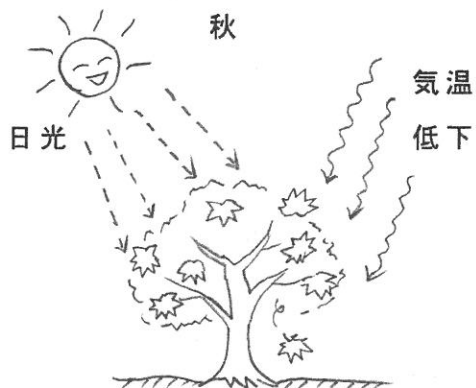
相 談 日 記

問 昨年の秋の紅葉について伺います。ドウタンツツジやサクラ、ヤマモミジなどよく紅葉するはずの樹木が、秋になってもなかなか葉の色を変えませんでした。高山の紅葉の便りが届いてから随分時間が経っても一向に色づかず、晩秋になってやっと色づいたものもあります。一体何が原因でしょうか？また、これを防ぐ方法や対策などがあれば知りたいのですが？

答 「紅葉」するために必要な条件は、①日光が充分に当たることと②昼間の気温と夜の気温差が大きいことの2つです。ふつう、秋になって気温が下がると、葉と枝の間に仕切りができ、葉で作られた養分が枝や幹に流れなくなります。そして、葉の中の緑の色素であるクロロフィルという物質が分解してなくなり、夜の間には赤い色素のアントシアンがかわりにできて葉が赤くなりますが、このアントシアンは葉に光が当たるとたくさんつくられることが分かっています。一方、葉が黄色くなる「黄葉」は、葉の色素を構成する2つのうち、緑の色素クロロフィルと黄色の色素カロチノイドのうち、気温低下によってクロロフィルだけが分解されてなくなり、黄色の色素であるカロチノイドが残るため黄色くなる仕組みで、「紅葉」と「黄葉」のどちらになるかは樹木の種類によって決まっています。

以上のような理由から、建物などの障害物がある日当たりの悪い場所や、秋に曇天続きの年、夜になってもあまり冷えない場所で育っていたりするとなかなか紅葉しません。また、チッソ肥料は葉の成長には効果的ですが、秋になっても与え続けていると葉の成長が止まらなくなってしまう赤い色素がつかられず、紅葉に影響がでます。葉焼けや病虫害によって葉の健康状態が悪くなっている場合も、きれいな紅葉がみられません。

対策と予防のポイント 日照不足の場合は、日がよく当たる場所に植え替えます。日当たりのよい場所は、夜はよく冷えるので、昼と夜の気温差の問題も解消される



と思われます。また、夏から秋にかけては、葉に日をよく当てるようにし、病虫害の被害にあわないよう健康管理にも気を配ります。チッソ肥料は、春から夏にかけて与え、秋には与えないように注意しましょう。

雄しべ雌しべが見えない不思議な花～アッツザクラ 花言葉 可憐



コキンバイザサ科ロードヒポキシス属の半耐寒性球根で、不思議な星形の花を次々に咲かせます。レッドスターとも呼ばれる南アフリカ原産の、小型で山野草的雰囲気を持った植物です。春から秋にかけて生育し、冬は休眠しますので、ふつつう開花調整して、早く咲かせた鉢植えが、正月頃から出回ります。冬に購入した開花鉢は、春まで室内で管理し、その後は日当たりの良い軒下に、真夏は半日陰の涼しい場所に移しましょう。秋に葉が枯れたら水を切って鉢ごと乾燥させ、凍らない場所で冬越しさせます。春の植え付け時期には掘り上げ、子玉を分球して4号鉢に5～6球を目安に、2～3cmの深さに球根を植え替えます。水やりは、生育中は水切れさせないように与えますが、秋に葉が黄変し始めたら徐々に減らし、冬は停止します。

ところで、アッツザクラは1属1種の植物ですが、昭和初期にイギリスから導入されて以来選抜がくり返され、4倍くらいの大輪品種が多く作られています。

1～2月の園芸講座・行事案内

市民園芸講座の内容紹介

♣庭木・花木・果樹管理の基本

日時 1月 23日(日) 13:00～15:00

講師 緑化相談員(樹木医) 泉 征三郎

定員 40人 参加料 無料



♣土壌と肥料管理のポイント

日時 2月 23日(水) 13:00～15:00

講師 農業改良普及センター 普及指導員 さん

定員 40人 参加料 無料

●第2回「いわみざわ洋らん展」

日時 2月 24日(木) 9:00～ 27日(日) 15:00

場所 室内公園「色彩館」ロビー 主催 いわみざわ洋らん愛好会

♣洋ラン栽培の楽しみ方

日時 2月 27日(日) 13:00～15:00

講師 北海道蘭友会理事 阿部 春樹 さん

定員 40人 参加料 無料

編集・発行 北海道グリーンランド(空知リゾートシティ株式会社)

お問い合わせは 室内公園「色彩館」緑の相談コーナー 25-6111 まで